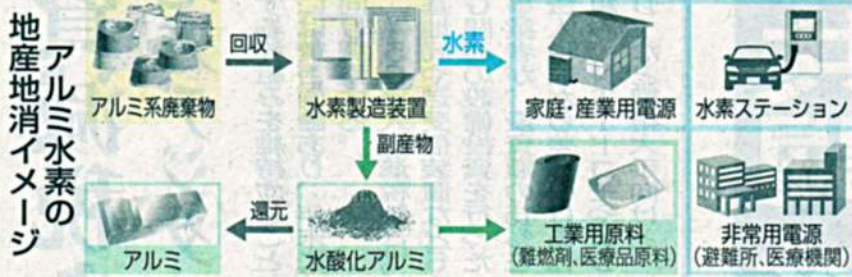


アルミ水素普及 国支援

10億円規模 アルハイテック(高岡)に



アルミのみから水素を発生させる装置「アルハイテック」

富山発の次世代エネルギー「アルミ水素」が実用化へ大きく前進した。脱炭素社会の実現に貢献する技術として、廃アルミから水素をつくるベンチャー企業、アルハイテック(高岡)が、岡市オフィスパークが環境省から数億〜10億円規模の財政支援を受けられる見通しになった。県西部初の水素ステーションの建設をはじめ、アルミを介してエネルギーを地産地消する仕

ズーム アルミ水素 アルミとアルカリ溶液の化学反応で発生する水素。アルハイテックが世界で初めて製造技術を確認した。アルミ9%から水素1%と水酸化アルミ27%が生じる仕組みで、副産物の水酸化アルミも難燃剤などの工業用原料に活用できる。

組みづくりを加速させる。環境省は22日、温室効果ガスの排出抑制に功績のあった企業などをたたえる本年度の「気候変動アクション環境大臣表彰」を贈る31個人・団体を発表。アルハイテックはこのうち、普及すべき革新的な技術を持つ2社に選ばれ、同省が来年度に予定する財政支援事業の優先採択権を得た。この事業は本年度、最大で年5億円を最長3年まで支給する内容になっている。

アルハイテックを選定した理由について、同省は「発想や技術力に優れ、これまでの実績から社会での早期の実用化が見込まれるため」としている。

アルミ水素は生成の過程で二酸化炭素(CO₂)を排出しないのが特長。現在、燃料電池車向けの水素ステーションで供給されている水素は化学工場や鉄鋼工場が副次的に発生したものが主流で、製造時に多くのCO₂を出している。輸送する際にも超低温で液体にした後、高圧で圧縮したりする必要があり、多大なコストとエネルギーを要する。

アルミ水素は装置があれば必要なときに必要な量を発生させることが可能で、製造や貯蔵のコストを大幅に抑えられる。その優位性に注目し、トヨタ自動車をはじめ多くの企業がアルハイテックと共同で研究を進めている。

アルハイテックはアルミ水素の製造装置を普及させ、地域で回収したアルミごみから水素を生み出し、家庭やオフィスに電力を供給したり、災害時の非常電源にしたりする構想を描く。水木伸明社長は「今回の受賞を弾みに、廃棄物を生かしてエネルギーを地産地消するまちづくりを進めていきたい」と話す。

(浜田泰輔)